

令和3年度 未来をつくろう 市民と市長の地域懇談会 報告書



日時	令和3年10月19日(火) 18:30~		
場所	ふれあいセンター		
参加者数	7人		
市側出席者	市長	北	猛俊
	副市長	石井	隆
	教育長	近内	栄一
	総務部長	稲葉	武則
	スマートシティ戦略室長	西野	成紀
	市民生活部長	山下	俊明
	保健福祉部長	柿本	敦史
	経済部長	川上	勝義
	都市施設課長	中島	禎
	教育部長	亀淵	雅彦
	企画振興課長	関澤	博行

【市長 開会のあいさつ】

紅葉も綺麗であります。白い雪もちらつくという状況で、大変寒い中、夜分にも関わらず、この地域懇談会に足を運んでいただき、お礼を申し上げます。今年の懇談会の形式は、コロナが収束しないという状況の中で感染防止も含め、会場数と定員を限定した開催になっています。

コロナの感染が確認されてから、2年になろうとしています。この間、往来の自粛や生活の行動も制限されるという中で、不自由と不安やストレスの溜まる2年が過ぎようとしています。市民の皆さんにおかれましても、大変な苦勞と感染防止に協力していただく中で過ごしてこられたのではないかと思います。10月1日で緊急事態宣言が解除されてから半月が過ぎようとしています。次の取り組みとしては、この2年近くの中で、なかなか対策を取ることができなかった、市民の方々の健康づくり、あるいは健康づくりで外出してもらうことでのコミュニティの再開。経済面では企業支援や観光におけるふらの割の取り組みを進めていきますが、経済の再生も図っていかねばならないと思っています。いずれにいたしましても、市民の皆さんのご協力ご理解をいただかねば、進められないということもありますので、引き続きご理解とご協力をお願いしたいと思います。

新しい生活や元の生活に戻すための取り組みが始まろうとしています。そうした課題について、ご意見をいただければ幸いです。また、未来をつくろうということですが、コロナ後の社会状況も様変わりするのではと思っています。時代の求めるものに対応していかなければなりません。そうした取り組みの一つが、ICTを活用して市民生活の利便性、あるいは満足度を高めていくということや、新たな交通体系、高齢者の方々の足確保の取り組みも進めていきます。これらの情報提供についても意見をいただきたいと思います。加えて、皆さんが住んでいる地域の課題があれば聞かせほしいと思います。

【懇談会の意見と回答】

除雪

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○除雪のあり方というよりも私たちのマナーの問題だと思うが、自分の家の前さえ広く綺麗になれば良いという感覚が年々強まり、向こうを見通せないような道路が住宅地では特に多く見受けられる。町内会で取り組むべきことなのかも知れないが、隣近所とのトラブルのこともあるので難しい。何か良い方法があれば教えてほしい</p>	<p>○例年、家の敷地から雪が出てくるのが見受けられますが、まずは皆様に理解してもらうことが大変重要だと思いますので、今後、連合町内会長会議や広報紙で根気強く理解を求めていきたいと考えています。今年度の除雪業者も決まり、本格的な除雪シーズンに入ります。業者との意見交換も含めながら、知恵を出し合って解決に向けて考えていきたいと思っています。</p> <p>○除雪は、間口の部分だけは持っていくようにしていますが、麻町は雪を投げる場所がなく、蛇行しないと通れない道路が随分あります。本当に危険だなというときは排雪します。皆様のご協力とご理解をいただきながら、道路状況を維持していきたいと思えます。</p>

公園

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○鳥沼公園のトイレの件。他市町村の公園に行くと立派な水洗トイレが用意されている。鳥沼公園のトイレは昔のトイレのまま。もう少し近代的なトイレにならないのか。</p>	<p>○トイレも非常に古くなっています。市内にはトイレ付きの公園が数多くありますので、順次、老朽化した部分は整備を進めているところです。鳥沼公園のトイレも地域性を考慮した改修を検討していきたいと思います。</p> <p>○鳥沼公園のトイレは、何年にも渡って指摘をいただいている状況です。コロナ前は観光シーズンになるとトイレの汲み取り回数が増えているという指摘もありました。市民が憩いの場として訪れても、決して良い環境ではないという指摘もあります。合併浄化槽だけでなく、循環型の簡易水洗で汚物を分解して長期間汲み取りの必要がなく、環境に優しく臭いも出ないという方法もありますので、技術的なことも検討しながら取り組みを進めていきたいと思います。</p>

空き地

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○住んでいる家の裏に80坪くらいの市有地がある。草がひどくて何十年も草刈りをしてきたが、高齢になり体力的に難しくなってきた。何とかしてほしい。</p>	<p>○現地確認をして適切な管理をして対応したいと思います。</p>

【市長 閉会のあいさつ】

限られた時間でしたが、ご協力をいただきお礼を申し上げます。情報提供のＪＲ関係ですが、未だにＪＲが残るのかバスになるのかと心配している方も多いと思います。ＪＲはもともと国の産業と関連して、石炭や木材、海産物というものを本州に運ぶために北海道内を整備してきたもので、その上に旅客がのったという状況です。そうした背景からすると、公共交通としての鉄道の維持は、国が行うべきものと思っています。現在、北海道が公共交通体系を作成しようとしています。北海道が鉄道の位置づけを考えてから、残るかどうかを判断することになると思っています。赤線区は国の支援を受けられません。支援の部分については、根室本線対策協議会と新得町、南富良野町、占冠村、富良野市が、北海道に対して不足分の 10 億 9000 万円の支援ができないか話をしている段階です。北海道も 10 億 9000 万円を支援するのは難しい状況です。北海道の正式な答えを受けた段階で、新たな公共交通体系の中で、バス転換の検討にもなってくると思っています。市民の利便性を損なうことなく、今のＪＲ以上の利便性を確保する方向でＪＲ北海道や北海道と協議をしていきたいと思っています。見通しが立ったときや状況が変化した段階で、皆さんに説明させていただきます。地域の課題も何点かいただきましたが、本日の地域懇談会が終わっても、何か気づいた点があれば、それぞれ担当部署に意見を出していただきたいと思います。そういう積み上げが住みよい、暮らしやすい、そして住んで良かったと思える富良野市になっていくと思いますので、引き続き行政に対するご協力をお願いします。

【参加者アンケートの主なご意見】

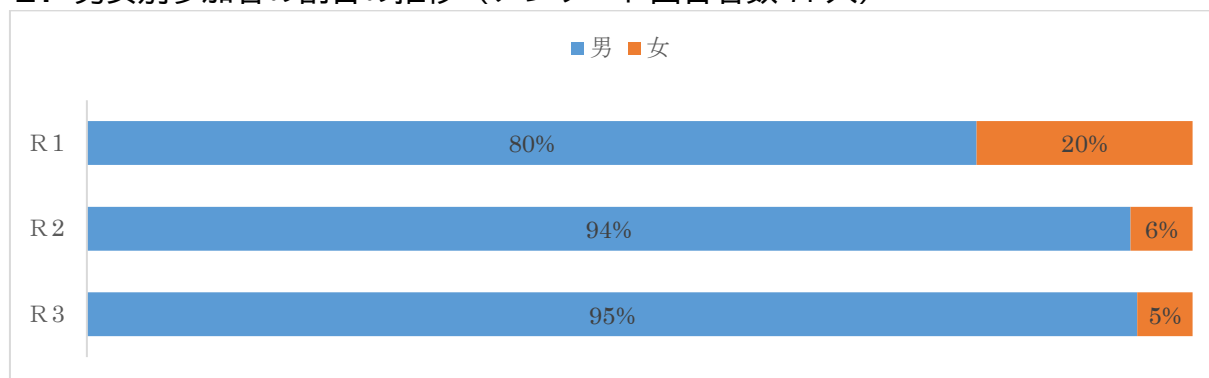
年齢区分	性別	ご意見
60-69 歳	男性	年齢制限のない出会いを企画してほしい

令和3年度「地域懇談会」アンケート集計結果

1. 参加者数

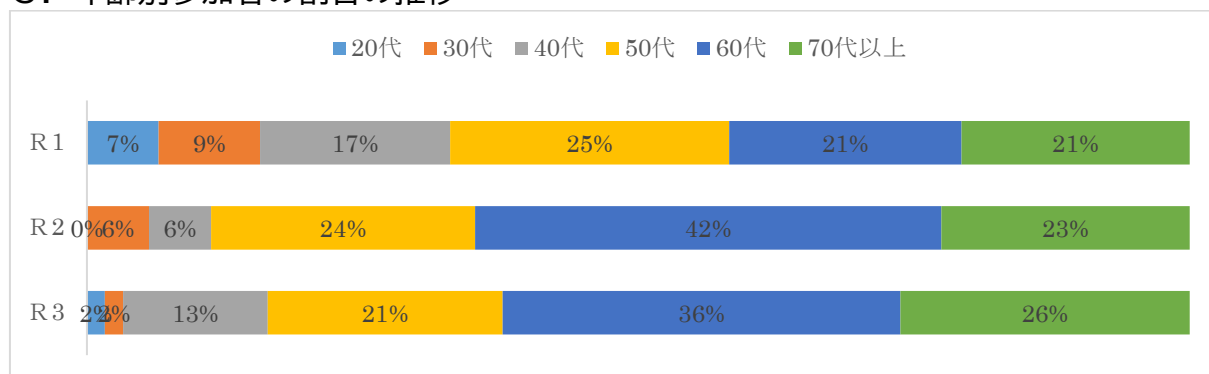
	場所	地区名	H30	R 1	R 2	R 3
10/21	文化会館	朝日会館	29	24	20	11
		栄町コミセン	30	33		
		北の峰コミセン	28	26		
		西地区コミセン	56	52		
		末広コミセン	40	42		
10/20	ふれあいセンター	布部会館	23	26	7	7
		鳥沼会館	38	28		
		東春コミセン	29	22		
		南コミセン	51	32		
		瑞穂コミセン	55	21		
		麻町児童センター	27	29		
10/27	山部福祉センター	山部福祉センター	24	22	18	17
10/28	東山支所	東山支所	32	40	24	27
10/26	麓郷集落センター	麓郷集落センター	34	39	10	15
		布礼別集落センター	27	17		
計			523人	453人	79人	77人

2. 男女別参加者の割合の推移（アンケート回答者数 71 人）



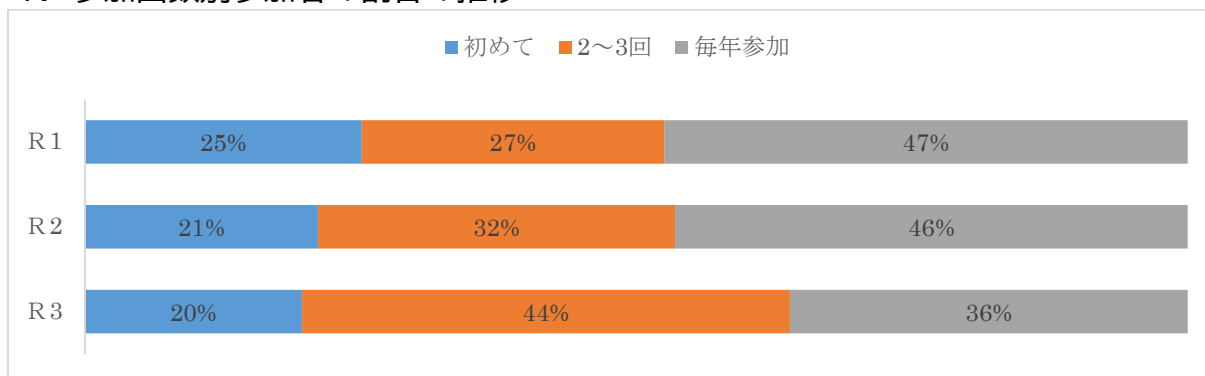
男女比率は昨年度と同程度

3. 年齢別参加者の割合の推移



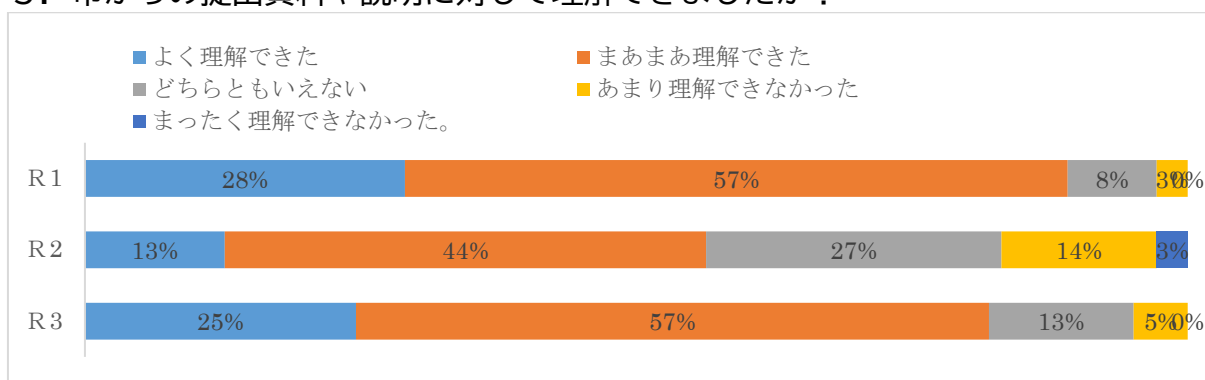
60歳代以上が52%。50歳代の現役世代は48%の割合

4. 参加回数別参加者の割合の推移



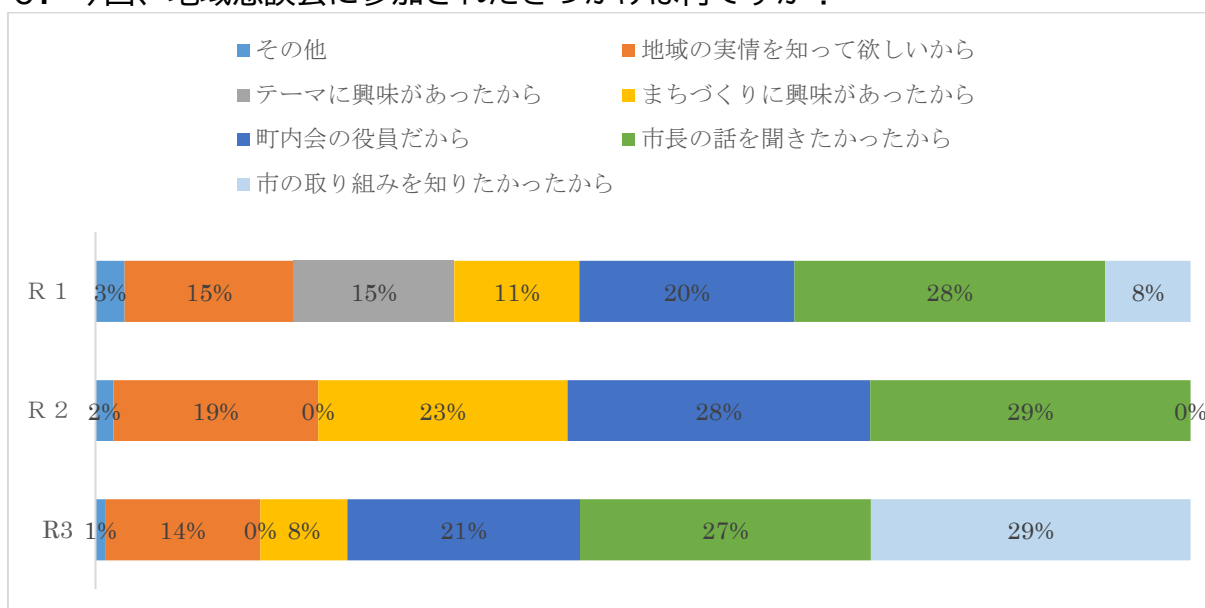
2～3回参加の割合が44%と最も多い

5. 市からの提出資料や説明に対して理解できましたか？



理解できなかった5%に対し、理解できたが82%と高い割合となった

6. 今回、地域懇談会に参加されたきっかけは何ですか？



「市の取り組みを知りたかった」が29%と最も高く、「市長の話を知りたかった」は27%、「町内会役員」は21%だった。